

浄土真宗本願寺派更生保護事業協会会長賞

思いやりとおせっかいの境界線

京都市立梅津中学校 二年 河村 かわむら 健堵 けんと

社会を明るくするために僕は、相手の「思いやりとおせっかいの境界線」を大切にすることが必要だと思います。その理由は、人にはそれぞれ自分の力でできることがあり、他の人に手を出されたくないことがあるからです。

そもそも思いやりとは、自分以外の人のために気遣いをしたり、相手の立場になって考えることです。逆におせっかいとは、他人のことに必要以上に立ち入って、よい世話をやくことです。

社会が明るい状態であるためには、人間関係が良くないといけません。人間関係が良くないと、生活が楽しくなくなったり、暗くなったりします。だからこそ、思いやりとおせっかいの境界線を意識することも大切だと思います。

人と関わる以上、必ずどこかでけんかは起こります。その中で僕はどんな問題なら解決できるか考えました。その結果「思いやり」と「おせっかい」に着目しようと思いました。

僕には二つ下の弟がいて、勉強で分からない部分をよく尋ねてきます。そんな中、弟は宿題中に手が止まっていました。僕は分からないのかなと思い、善意で教えました。しかし、弟は分からないのではなく、考えている最中で自分で答えを導き出そうとしていました。そのようなことが何度もあり、弟が腹を立てて、ちょっとしたけんかになってしまいました。そして家族にも影響が及びました。

このように善意だとしても、相手がおせっかいだと感じれば、ストレスを感じてしまいます。このまま続けば、人間にも限界があるのでその人の体、もしくは周りの関係ない人にまで影響する可能性があります。

こういった事故を無くすためにも、思いやりの気持ちが本当にあるならば、自分なりに考えて工夫する必要があります。例えば、思いやりの気持ちがあつて、相手を助けたいと思った時は、相手に助けが必要なのか、もしくは相手が助けを必要としているのかを本人に直接尋ねることでストレスがたまることなく過ごすことができます。

このように人は接し方を変えるだけで良い方向にも悪い方向にも傾きます。なので、相手が思っている「思いやり」の領域からはみ出さず、お互いが気持ちよく過ごすためにも物事の「境界線」を意識するべきだと考えます。また、その行いが正しいのか正しくないのかを自分で判断して行動するべきだと考えます。これを実現させるために、まずは自分から行動に移していきたいと思えます。そして、周りの人に良い影響を広げられるようにしたいです。そうすると必ず暴言は減ると思うので、「境界線」を意識して生活していきたいです。

